

を大事にしよう」「理科 イントを挙げた。などの中で、短い時間で 同フォーラム事務局／も継続的に取り入れ、実 TEL058(3998)66 施してほしい」などとボ 333。

教育情報化の本気度検証

学びのイノベ^なと振り返る

DiT^がT^シン^ポ

昨年度で終了した文科省の学びのイノベーション事業と総務省のフューチャースクール推進事業を振り返り、教育情報化への課題と今後を話し合うデジタル教科書教材協議会(DiTT)主催のシンポジウムが、さきごろ都内で行われた。

層の充実と進展に向けた本気度について疑問を感じる点があったとした。

山田教授も、「学びのイノベーション事業を担う文科省の担当部署が、学校教育を主に担う初中局ではなく生涯学習局に置かれている」などとし、

で、国全体の教育情報化推進のステップは少々きくしゃくしているとの警鐘も鳴らした。

「何がいけなかったの？フューチャー&学び」と題したパネルディスカッションには、同協議会事務局長の中村伊知哉慶應義塾天大学院教授、土居丈朗慶應義塾天教授、松原聡東洋大教授、山田肇東洋大教授、石戸奈々子同協議会理事が参加した。

後半はこれらの意見を受け、「教育のICT活用への意義を改めて考え直す」との議論が各参加者から投げ掛けられた。

一方、松原教授は「国の両事業では、初等中等教育段階からの集中・継続性のあるプログラミン

中村事務局長は「ICTの教育活用では、学力向上に主な視点があてられている。子どもたちが

グ講座などの実施や、タブレットPC1人1台の配置などの目標を掲げ、各学校現場の教育情報化の具体的推進力となつて

「授業の中で先生に実際にICTを使ってもらうことが大切。経験とコツを蓄積してもらうことでICT活用のスキルアップは進んでいく」とも提

学びのイノベーション

事業について土居教授は予算措置や教育効果の検証などの観点から、不十分な点があったのではと指摘。教育の情報化の一

1人1台のタブレットPC配布などを行う佐賀県武雄市など自治体独自の先進的な動きがある中

言された。